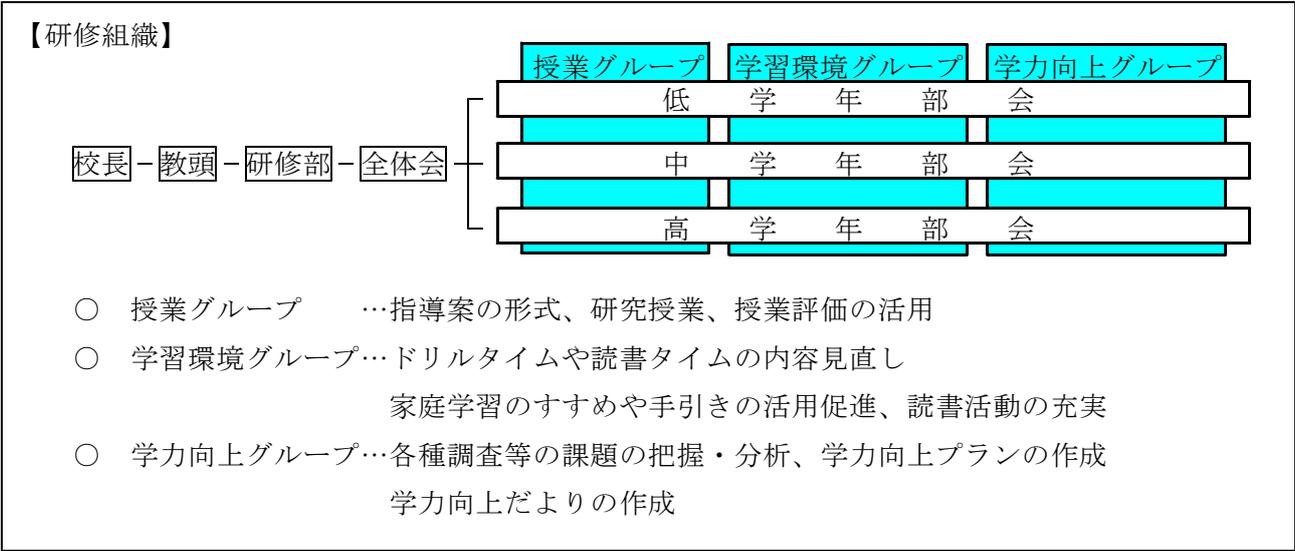


授業づくり拠点校研修会実践事例

I 校内研修体制

本校では、研究主題「自分の思いを表現し、互いに学び合う児童の育成～国語科における読む力を高める指導の工夫～」を掲げ、国語科を中心に研修を進めてきた。

今年度は、全国学力・学習状況調査や山口県学力定着状況確認問題などの各種調査をより活用し、児童の学力向上を全校体制でめざすため、研修組織として、低・中・高学年部とは別に、以下の学力向上プロジェクトグループを編成した。このことにより、系統だった全校体制での取組がより強化された。



II 研究の経過

日々の授業実践を大切にし、計画－実践－評価－改善の過程を通して、自己研修、学年研修、全体研修に取り組んできた。

放課後の同学年による日常的な授業の情報交換、授業改善の視点を探るミニ研修、公開授業、公開授業後の研究協議（ワークショップ型と従来型の併用）などを行ってきた。公開授業においては、学年4、5学級ある利点を生かし、同学年で同様の授業を行うなど、授業者のみの研究とならないように留意してきた。



公開授業



公開授業後の研究協議



指導案検討



ミニ研修

ける。そのため、並行読書で、必要な情報を選び、観点ごとにメモをとっていくようにする。

○ 読み取りの手立て

- ・ 筆者が述べる3つの観点をはっきりさせるため、教材文を序論・本論・結論に分け、構成をつかむようにする。また、教材文や文章構成図を教室に掲示し、前時の学習を生かせるようにする。
- ・ 並行読書による調べ読みのテーマを意識させるために、「和の文化を受けついでいく」という教材文の要旨を本論の読み取りの前につかませておく。
- ・ 教材文の本論を「読み取りカード」に書いていくことで、まとまりを意識した読み取りができるようにし、また並行読書で調べたことを簡潔に書き出す活動にもつながるようにする。
- ・ 筆者の説明の仕方や資料の提示の仕方から感想を書くことで、自分たちが並行読書をする際に相手意識をもち、調べる視点を整理できるようにする。

【読み取りカード】

・もちやだんご↑保存、野山に持っていくため ・木の実や果物↑甘いもの少なかったから (内容)	小見出し	【観点】 歴史
	菓子のはまり	
	③段落	

○ 振り返りの手立て

- ・ 教材文の良さ、分かりやすさを聞き手・読み手の立場で振り返ることで、自分が話し手となる説明文を考えると、聞き手の立場からも振り返ることができるようにする。
- ・ グループ活動の中で、自分が調べたことや自分の考えを友達と比べたり、説明の構成や資料、話し方について気付いたことを伝え合ったりすることで振り返りができるようにする。

4 評価規準

【関・意・態】	【話す・聞く】	【読む】	【言語】
ア 「和の文化」について関心をもち、調べて説明するという目的を意識して文章を読もうとしている。	ア 集めた情報を観点ごとに整理して、明確に伝わるように、説明の構成を工夫している。 イ 自分の意見と比べたり、説明の構成や資料の使い方に注意したりして聞いている。	ア 説明会という目的を意識して、観点や構成に着目して内容的に押さえながら読んでいる。 イ 複数の本や文章から必要な情報を選ぶとともに、図表や写真等の情報を利用するなど、効果的な読み方を工夫している。	ア 文章のいろいろな構成について理解している。

Ⅲ 公開授業指導案と授業の実際

本校研究主題 自分の思いを表現し、互いに学び合う児童の育成
～国語科における読む力を高める指導の工夫～

研究仮説

児童一人ひとりが意欲的に文章を読み取ることができるよう手立てを工夫すれば、児童の考えも深まり、学び合うことができるであろう。

第3学年4組 国語科学習指導案

平成27年11月11日（水）5校時

指導者 林 隆之（T1）・福本 和浩（T2）

1 単元名 はたらく犬について、「もの知りカード」で伝えよう わたしの「はてな」
教材文 「もうどう犬の訓練」（吉原 順平）

2 目 標

- (1) 働く犬について図鑑や科学読み物などを使って調べたいという意欲をもちながら、解決の手がかりとなる本や文章を読もうとする。（関心・意欲・態度）
- (2) 働く犬について知りたいことを調べ、「もの知りカード」にまとめるために必要な情報は何かを考えながら読み、要約することができる。（読む能力）
- (3) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解することができる。
（言語についての知識・理解・技能）

3 指導の立場

本学級の児童は、2年「ビーバーの大工事」の教材文を通して、大事な言葉を落とさずに読み、文章の中から必要な情報だけを選び出す学習経験をしている。また、3年「自然のかくし絵」では、昆虫の身の隠し方を読み取り、感想を伝え合う活動を通して、大事な言葉や文に着目して段落ごとに書かれている内容を読み取る学習をしている。しかし、大事な言葉を見付けることができない児童や文全体を選んでしまう児童がおり、文章の中から必要な情報を選び出す力が十分身に付いているとはいえない。本に関する関心が高く、理科の学習では、資料や図鑑などの説明的な文章を積極的に読む姿が見られ、本単元においても、意欲的に資料や図鑑を読む姿が期待できる。

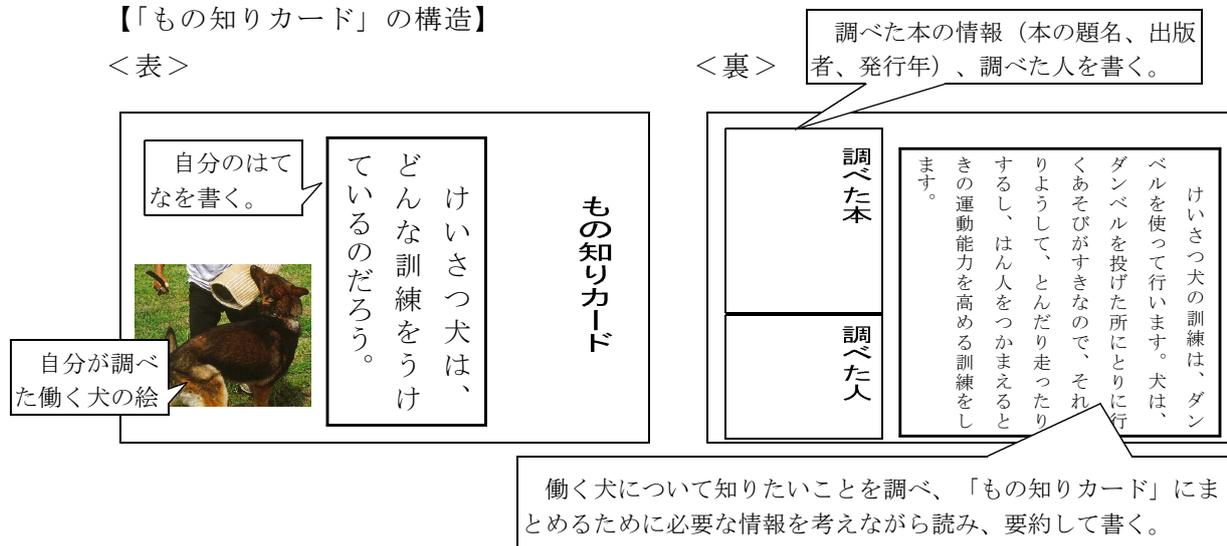
本単元は、知りたいことについて調べ、短くまとめる活動を通して、大事な言葉や文を見付けながら読み、要約する力を付けることをねらいとしている。重点指導事項は、学習指導要領C読むこと(1)エ「目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」である。そのため、C(2)イ「記録や報告の文章、図鑑や辞典などを読んで利用する」言語活動を位置付ける。教材文「もうどう犬の訓練」は、段落のまとまりがはっきりしていて、盲導犬になるまでの訓練について、順序よく説明されている文章である。文章構成は、始め（犬の特長と働く犬および盲導犬の定義）→中（盲導犬になるための訓練と心構え）→終わり（一人前の盲導犬としての暮らし）となっている。また、それぞれの訓練について、訓練の意味を納得しながら読み進められるようになっており、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、要約することに適した資料である。

そこで、指導に当たっては、次のことに留意したい。

○ 単元構成の工夫

- ・ 導入で、ペットとして飼われている犬と働く犬の写真や盲導犬のビデオを見せ、児童の興味・関心を高めるとともに、教師自作の「もの知りカード」を紹介し、単元の学習の見通しがもてるようにする。また、作成した「もの知りカード」は、図書室にコーナーを設けて掲示することを知らせ、児童の学習意欲につなげる。

【「もの知りカード」の構造】



- ・ 働く犬について知りたい情報を得るために関連した本を読み、必要な情報を要約して「もの知りカード」にまとめる言語活動を位置付ける。そのため、並行読書で、自分が選んだ働く犬のどんなことについて知りたいかをノートに書いておくようにする。

○ 読み取りの手立て

- ・ 盲導犬について知りたいことが文章のどこにあるかをはっきりさせるため、教材文を「始め」「中」「終わり」に分け、大まかな構成をつかむようにする。また、全文を教室に掲示し、前時の学習を生かせるようにする。
- ・ 接続語や指示語、順序や時期、期間を表す言葉、興味をもったことをはっきり説明するための中心となる文や言葉に着目させるため、必要な言葉や削除する言葉に線を引かせたり、接続語が必要なときは書き加えさせたりする。

○ 振り返りの手立て

- ・ 要約した文章を振り返るポイントを示し、自分自身で振り返ることができるようにする。
- ・ 作成した「もの知りカード」を互いに読み合い、感想を述べ合うことで、学習の振り返りができるようにする。

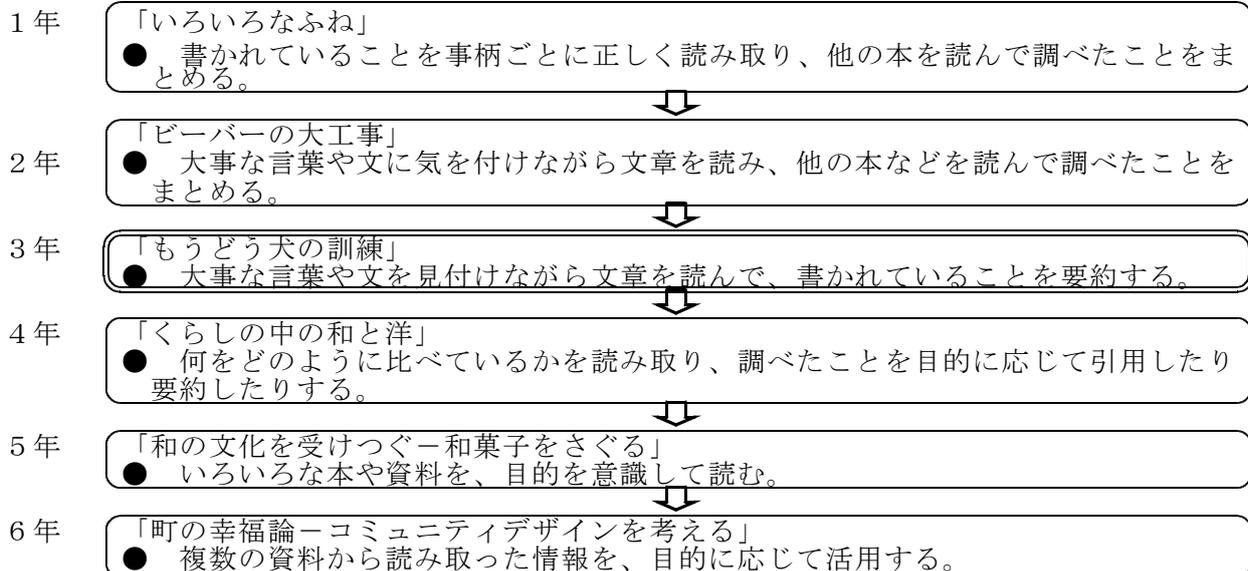
4 評価規準

【関・意・態】	【読む】	【言語】
ア 働く犬について図鑑や科学読み物などを使って調べたいという意欲をもち、解決の手がかりとなる本や文章を読もうとしている。	ア 働く犬について知りたいことを調べ、「もの知りカード」にまとめるために必要な情報は何かを考えながら読み、要約している。	ア 指示語や接続語を手がかりに文や段落相互の関係をとらえて、文章を読んでいる。

5 指導計画（総時数 10 時間）

次	時	主な学習活動	評価（方法）
第一次 ①	1	<ul style="list-style-type: none"> 盲導犬のビデオを見て、働く犬について興味をもつ。 「もの知りカード」のモデルを見て、めあてをもつ。 はたらく犬について、わたしの「はてな」を調べ、もの知りカードにまとめよう。 関連資料について知る。 	関 「もの知りカード」を作ることに関心を持ち、自分が読む本を選び、読もうとしている。 (発言・行動・ノート)
	2	<ul style="list-style-type: none"> 題名から、盲導犬について知りたいことを考える。 知りたい情報がどこにあるのかを見付けるために、教材文を「始め」「中」「終わり」に分け、大まかな構成をつかむ。 	言 指示語や接続語を手掛かりに文や段落相互の関係をとらえて、文章を読んでいる。 (発言・ノート・教材文)
第二次 ⑥	3	<ul style="list-style-type: none"> 要約の仕方を知り、盲導犬とはどんな犬かをまとめる。 	読 大事な言葉や文を見付け、言葉を補ったり書き換えたりしながら要約している。 (発言・プリント・教材文)
	4	<ul style="list-style-type: none"> 「人間の言うことに従う訓練」について要約する。 「訓練」について書かれている箇所を探しながら並行読書をする。 	読 必要な言葉に着目し、「人間の言うことに従う訓練」を要約している。 (発言・プリント・教材文)
	5 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 「人を安全に導く訓練」について要約する。 「訓練」について書かれている箇所を探しながら並行読書をする。 	読 必要な言葉に着目し、「人を安全に導く訓練」を要約している。 (発言・プリント・教材文)
	6	<ul style="list-style-type: none"> 「盲導犬がしてはいけないこと」について要約する。 	読 知りたいことの答えを教材文から見付け、言葉を書き換えたり、補ったりしながら要約している。 (発言・プリント・教材文)
	7	<ul style="list-style-type: none"> 働く犬について知りたいことを考える。 並行読書で、自分の疑問を解決するために必要な箇所を探す。 	読 知りたいことの答えを並行読書の中から見付けるために、選んだ本を読んでいる。 (ノート・行動)
第三次 ③	8	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ本の中から「もの知りカード」をつくる上で必要な情報を取り出す。 	読 自分の疑問を解決するために、答えになる部分が書かれている箇所を探し、自分が必要な言葉や文を見付けている。 (ノート・行動)
	9	<ul style="list-style-type: none"> 「もの知りカード」をつくる。 	読 調べて分かったことを整理して要約し、「もの知りカード」にまとめている。 (もの知りカード)
	10	<ul style="list-style-type: none"> 友達と「もの知りカード」の交流をする。 	関 働く犬に興味をもって読んだり、進んで感想を伝えようとしたりしている。 (発言・付箋)

6 領域の系統（読むこと）



○ 主 眼

もの知りカードを作るために、「人を安全に導く訓練」についての大事な言葉や文を見付け、要約することができる。

○ 準 備 物

掲示用教材文、もの知りカード
関連資料 付箋

○ 評 価

必要な言葉に着目し、「人を安全に導く訓練」について要約することができたか。
(発言・プリント・教材文)

「人を安全にみちびく訓練では、何を教えるのか。」という問いの答えになるよう、だいたいな言葉や文を見つけて要約しよう。

〈人間の言うことにしたがう訓練〉

人間の言うことにしたがう訓練は、「カム」、「ダウン」、「シット」などの英語で命令します。そして、命令の言葉を少しずつおぼえさせ、そのとおりにできるようにします。

もの知りカード

- ・ 言葉をはぶく。
↓たとえば…くわしく書いている。
- ・ 言葉をおぎなう。
↓そして、また、さらに

⑨ 次は、人を安全にみちびく訓練です。

⑩ この訓練が始まると、「ハーネス」という器具が犬の体にとりつけられます。つれてくる人がハーネスをにぎると、犬の動きがたわつてきます。

⑪ あぶないもの前で止まつたり、それをよけて進んだりすることを、くりかえしくりかえし教えます。たとえば、左は本わっている声では、つまづいて転ばないように、かならず一度止まります。電柱がわれば、つれてくる人がぶつかからないようは、上手にまけるまはします。

⑫ また使っている人にとってきけんな命令には、したがわないことも教えます。たとえば、「自動車が走つてくる所へ、わざと「ゴ」（進め）」と命令し、命令とおりに進むと自動車をぶつかつてはならない訓練をします。このような訓練をくりかえして、あぶないまきは、「ゴ」と書かれても、前へ進まないことをおぼえさせるのです。

〈見直すときのポイント〉

- ・ 「何を教えるのか」の答えになっているか。
- ・ く訓練（で）は、くを教える。

【評価】

終 末

- 四 自分の要約した文を見直す。
 - ・ 問いに対する適切な答え
 - 見直しの観点を与え、自分で見直しができるようにする。
- 五 他の動く犬の訓練について調べる。
 - ・ 自分の選んだ本の訓練について書いてある部分の選択
 - 見付けた場合は、付箋を貼り、第三次での「もの知りカード」作成に生かせるようにする。

展 開

- 二 「人を安全に導くための訓練」について要約する。
 - Ⅰ 「人を安全に導く訓練では、何を教えるのか」の答えになるよう、要約しよう。
 - ・ 主語と文末表現の工夫
 - ・ 接続語の使い方
 - 書けない児童には、書き出しをヒントとして提示する。
- 二 教材文を読み、大事な言葉や文に線を引いたり、不必要な部分を線で消したりする。
 - ・ 「教える」と言う言葉への着目
 - ・ 例示の部分の削除
 - 他の児童との交流により、線を引いたり、削除したりした理由を言わせ、大事な言葉や不必要な部分に気付くことができるようにする。

入 導

- 一 本時の学習課題をつかむ。
 - ・ もの知りカードの答えとなる要約（形式段落⑨く⑫）
 - もの知りカードを提示し、答えとなるように要約することを告げる
 - 人間の言うことに従う訓練について要約した前時の学習を想起し、要約の仕方に対する学習の見通しがもてるようにする。

本 時 の 流 れ

8 授業の実際

「人を安全に導く訓練では、何を教えるのか」という『はてな』の答えになるよう、大事な言葉や文を見つけて要約しよう」という本時のめあてのもと、児童は、人を安全に導く訓練について、大事な言葉や文に赤線を引いたり、不必要な言葉や文を青線で消したりしながら、読み取っていった。「人を安全に導く訓練では、何を教えるのか」という「はてな」は、単元始めに児童から出されたものである。

全体での話し合いでは、「段落⑩は、ハーネスのことが書いてあるからいらぬ」「『例えば』で始まる文は、詳しく書いているだけだからいらぬ」「『このような訓練を』で始まる文は、『例えば』の文につながっているからいらぬ」などの意見が出され、必要のない文を削除していった。また、「どの文が必要か」と問うことで、文末が「～教えられます。～教えられます。」となっている二文を見付けることができた。そのような中、段落⑩の「例えば」の文はいらぬと判断しているが、段落⑫の「例えば」の文は必要と判断している児童がいた。「例えば」の文を形式的に削除するのではなく、「はてな」の答えになっている部分を見付けようとするこだわった読みである。

その後、「人を安全に導く訓練では、何を教えるのか」の答えとなるよう、見付けた大事な言葉や文を使って要約していった。ここで大切なことは、問いの答えになっている要約であるかということである。児童は、書き出しを、「人を安全に導く訓練は」とし、文末にも気を付けて要約していった。段落⑫の「例えば」の文が必要と判断した児童は、要約の文が長くなりすぎることから、「例えば」の文を短くし、要約していった。

授業の最後には、マイブックの中から、訓練について書かれている部分を探していった。見出しには、訓練と書かれていないが、その内容から、訓練について書かれていると判断した児童もいた。



9 成果と課題（研究協議・受指導から）

- 単元のゴールを明確にし、指導事項を焦点化した3年部全体での取組が素晴らしい。
- 目標を3点に絞っていること、児童にどのような力を付けるためにどのような言語活動を単元を通して位置付けるのかを明確にしていること、毎時間の評価や評価方法が書かれているなど、総案がグッドモデルである。
- 児童が主体的に教材文にかかわっていた。その要因として、めあてが明確であること、要約の仕方がしっかりと指導されていること、教師の働きかけ（発問や見取り）のよさが挙げられる。
- 児童のこだわりのある読みを大切にしている。学年の縦のつながりを大切にしてほしい。
- 要約として書く量をどれくらいにするかがポイントとなる。授業の最後で、教師の要約モデルを示すとよかった。
- 児童同士の交流において、比べながら聞くことを今後も指導していきたい。

第5学年4組 国語科学習指導案

平成27年11月11日（水）5校時

指導者 石崎 光恵

1 単元名 和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる

2 目標

- (1) 目的を意識して文章を読み、進んで調べたい課題を探したり、資料の提示の仕方を工夫して話したりすることができる。(関心・意欲・態度)
- (2) 伝えたい内容や目的に合わせて、資料を活用して説明することができる。(話す・聞く能力)
- (3) 複数の本や資料を、目的を意識して読むことができる。(読む能力)
- (4) 文章の構成について理解することができる。(言語についての知識・理解・技能)

3 指導の立場

本学級の児童は、6月に「動物の体と気候」の学習で、序論・本論・結論、かつ本論部分が三つに分かれている文章構成について学習した。更に、字数制限を加えて、要旨をまとめる学習もした。また、総合的な学習の時間の『ヒロシマ』をきっかけに」の学習では、広島に落とされた原子爆弾について社会見学などを通して学んだり、調べたりしたことを一人ひとりが新聞にまとめ、その後グループに分かれて4年生に伝える活動をした。4年生に伝える際、児童は分かりやすく伝える方法として、説明と同時に写真や模型を提示したり、紙芝居や劇を取り入れたりした。しかし、調べた本や資料の文章をそのまま読んだり、手持ちの写真を全部使ったりする児童も多く、目的を意識して情報を集めたり、説明や資料の活用の形式を工夫して発表したりすることは十分とはいえない。

本単元では、和の文化について説明する活動を通して、いろいろな本や資料を、目的を意識して読んだり、伝えたい内容や目的に合わせて資料を活用して説明したりすることをねらいとしている。重点指導事項は、学習指導要領C読むこと(1)カ「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」とA話すこと・聞くこと(1)イ「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」である。そのため、A(2)ア「資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする」言語活動を位置付ける。教材文「和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる」は、伝統的な文化に関するものの中でも想起しやすい和菓子を題材とし、序論・本論・結論の構成が明確な文章である。また、和菓子を三つの観点（歴史、他の文化との関わり、支える人々）から説明するという構成は、その後の調べ学習や発表へとつなげやすい。更に、写真や図表などの資料が説明に用いられており、発表の際の資料の活用へとつなげることもできると考える。

そこで、指導に当たっては、次のことに留意したい。

○ 単元構成の工夫

- ・ 導入で、「和の文化」に関係する写真を提示し、児童の興味・関心を高めるとともに、「和の文化について調べ、4年生にその魅力を伝えよう。」という単元のゴールを示すことで学習への意欲を引き出すことができるようにする。
- ・ 和菓子以外の「和の文化」についてまとめ、資料を提示しながら説明をする言語活動を位置付

5 指導計画（総時数 13 時間）

次	時	・主な学習活動（○は並行読書による学習活動）	評価（方法）
第一次 ①	1	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題や学習計画を知り、学習の見通しをもつ。 「和の文化」について調べ、4年生にその魅力を伝えよう。 教材文を読み、感想をもつ。 ○ 関連教材について知る。 	<p>関 「和の文化」に関心をもち、調べて説明するという目的を意識して文章を読もうとしている。（行動・発言）</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> 「序論」「本論」「結論」の文章構成をとらえる。 本論を3つに分け、それぞれの観点を見付ける。 ○ 関連教材文を読む。 	<p>読 三段構成の文章構成を理解し、本論から3つの観点を見付けることができる。（発言・ノート・教材文）</p>
第二次 ⑧	3	<ul style="list-style-type: none"> 序論と結論の要点を考える。 教材文の要旨を考える。 ○ どんな「和の文化」について発表するかを決める。 	<p>読 序論と結論に注目し、要旨をとらえることができる。（発言・ノート・教材文）</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> 本論①を読み、読み取りカードに小見出しや内容をまとめ、感想と伝えるときの工夫を書く。 	<p>読 観点や構成に着目して内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。（発言・ノート・教材文）</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 並行読書で、本論①で学習したことについて調べ、読み取りカードにまとめる。 	<p>読 自分が調べたい和の文化において、「歴史」の観点に基づいて調べることができる。（行動、カード）</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> 本論②を読み、読み取りカードに小見出しや内容をまとめ、感想と伝えるときの工夫を書く。 	<p>読 観点や構成に着目して内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。（発言・ノート・教材文）</p>
	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 並行読書で、本論②で学習したことについて調べ、読み取りカードにまとめる。 	<p>読 自分が調べたい和の文化において、「ほかの文化との関わり」の観点に基づいて調べることができる。（行動、カード）</p>
	8 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 本論③を読み、読み取りカードに小見出しや内容をまとめ、感想と伝えるときの工夫を書く。 	<p>読 観点や構成に着目して内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。（発言・ノート・教材文）</p>
	9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 並行読書で、本論③で学習したことについて調べ、読み取りカードにまとめる。 	<p>読 自分が調べたい和の文化において、「支える人々」の観点に基づいて調べることができる。（行動、カード）</p>
	10	<ul style="list-style-type: none"> 個人の読み取りカードを持ちより、グループで観点ごとに分類し、更に必要な情報を集める。 	<p>読 自分の課題を解決するために、複数のメモを比べて読み、観点ごとに分類することができる。（行動、文章構成図）</p>
第三次 ③	11	<ul style="list-style-type: none"> 観点ごとに集めた情報を取捨選択し、整理する。 発表の構成を考え、文章にしていく。 必要な資料の準備をする。 	<p>読 必要な情報を選び、文章の構成を考えていくとともに、図表や写真等を利用するなど効果的な説明の仕方を考えることができる。（行動、文章構成図、ノート）</p>
	12	<ul style="list-style-type: none"> 教材文と比べ、文章構成や資料が適切かを振り返り、文章を推敲する。 グループ内で説明の練習をする。 グループごとに発表し、気付いたことを伝え合う。 	<p>話 発表原稿をもとに、用意した資料を用いながら説明する練習を行い、よりよい発表の仕方を考えている。（行動、発表原稿）</p>
第四次 ①	13	<ul style="list-style-type: none"> 4年生に説明会を開く。 	<p>話 伝えたいことを意識して、事柄が明確に伝わるように資料を活用して説明している。（発表）</p>

7 本時案 (第二次 7/8)

○ **主眼**
筆者の考えや説明の仕方を読み取ることで、分かりやすく伝えることの工夫を考えることができる。

○ **評価**
【ア】観点や構成に着目して、内容を的確に押さえることができただか。(読み取りカード・発言)
【イ】筆者の表現や資料の使われ方を見て、自分の考えを明確にしながらから読むことができたか。(ノート・発言)

和の文化を受けつぐ—和菓子をさぐる

分かりやすく伝えるための工夫を考えよう。

観点3【支える人々】

小見出し	和菓子を作る職人	⑬段落
------	----------	-----

内容

- ・受けつがれてきた技術「包む」「焼く」「流す」
- ・感性を養う
- ↓季節を感じ取る、ほかの日本文化に親しむ

感想と伝えるときの工夫

大以外に作るんだが、切外にあること

自分たちが伝えるとき、技術以外に必要とされる工夫

観点3【支える人々】

小見出し	道具や材料を作る人	⑭段落
------	-----------	-----

内容

- ・道具「三角べら」「和ばさみ」「木型」
- ・上質な材料
- ←昔ながらの手作業で作られている

料道具や材料の知識がほしい

自分たちが伝えるとき、

観点3【支える人々】

小見出し	和菓子を食べる人	⑮段落
------	----------	-----

内容

- ・季節の和菓子を味わう
- ・年中行事に合わせて作る

自分たちが伝えるとき、

人も支えたい

資料1 木型を使って和菓子を作っている写真

資料2 木型を彫っている写真

職人の手元を写す

(振り返り)

・「筆づくりを支える人々」を調べるときは、職人さんが技術をみがくこと以外に、どんなことをされているか調べてみたい。

	本時の流れ	
導入	<p>一 本時の学習課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式段落⑩～⑮の内容 ・観点3 <p>○ 文章構成図を提示し、前時の学習を想起できるようにする。</p> <p>○ 筆者の説明方法に着目しながら音読させる。</p>	<p>一 読み取りカードをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和菓子の文化を支える人々 ・小見出し <p>○ 小見出しを書き、内容を短く簡潔書きにまとめることで、並行読書の際に自分が調べたことを簡潔に書き出すことができるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【ア】</p>
展開	<p>二 本文を読んで、自分の考えや感想、調べてみたいことを吹き出しに書く。</p> <p>Ⅰ 相手に分かりやすく伝えるための工夫を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の工夫 ・自分ができる工夫 <p>○ 初めに読み手としての感想を書くことで、自分たちが調べるときに相手意識をもつことができるようにする。</p> <p>○ 自分が伝えるときにはどんな工夫ができるかを書かせることで、並行読書における読む視点を整理できるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【イ】</p>	<p>二 本文を読んで、自分の考えや感想、調べてみたいことを吹き出しに書く。</p> <p>Ⅰ 相手に分かりやすく伝えるための工夫を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の工夫 ・自分ができる工夫 <p>○ 初めに読み手としての感想を書くことで、自分たちが調べるときに相手意識をもつことができるようにする。</p> <p>○ 自分が伝えるときにはどんな工夫ができるかを書かせることで、並行読書における読む視点を整理できるようにする。</p> <p style="text-align: right;">【イ】</p>
終末	<p>四 本時を振り返る。</p> <p>○ 本時で学んだことから、次の時間の並行読書で何をくわしく調べたかを書くことで、次の活動に生かすことができるようにする。</p>	<p>四 本時を振り返る。</p> <p>○ 本時で学んだことから、次の時間の並行読書で何をくわしく調べたかを書くことで、次の活動に生かすことができるようにする。</p>

6 領域の系統

【読むこと】

【話すこと・聞くこと】

1年

「いろいろなふね」

●書かれていることを事柄ごとに正しく読み取り、ほかの本を読んで調べたことをまとめる。

「じゃんけんやさんをひらこう」

●創作じゃんけんを作り、そのじゃんけんの仕組みを、絵や身振りを使いながら順序よく説明する。



2年

「ビーバーの大工事」

●大事な言葉や文に気を付けながら文章を読み、他の本などを読んで調べたことをまとめる。

「おもちゃ教室をひらこう」

●手作りおもちゃの作り方や遊び方を、聞き手に分かりやすいように工夫しながら順序よく説明する。



3年

「もうどう犬の訓練」

●大事な言葉や文を見付けながら文章を読んで、書かれていることを要約する。

「町について調べてしょうかいしよう」

●町について紹介したいことをグループで調べ、資料を使って分かりやすく説明する。



4年

「くらしの中と和と洋」

●何をどのように比べているかを読み取り、調べたことを目的に応じて引用したり要約したりする。

「報告します、みんなの生活」

●アンケートで調べた結果をポスターにまとめ、分かったことや考えたことを分かりやすく報告する。



5年

「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる（和の文化について調べよう）」

- いろいろな本や資料を、目的を意識して読む。
- 「和の文化」について調べ、伝えたい内容や目的に合わせた資料を用いて説明する。



6年

「町の幸福論ーコミュニティデザインを考える（町の未来をえがこう）」

- 複数の資料から読み取った情報を、目的に応じて活用する。
- 町の未来について考えたことを、資料を効果的に活用してプレゼンテーションする。

8 授業の実際

「分かりやすく伝えるための工夫を考えよう」という本時のめあてのもと、児童は、「和菓子を支える人々」についての内容を読み取りながら、更に自分たちが発表するときに見える作者の工夫を見付けていった。

音読の前には、「まず」「また」「このように」などの文をつなぐ言葉や「～でしょうか。」「～でしょう。」などの文末に注目させた。児童はその部分を意識することで、文の役割や作者の意図をより捉えることができたように思う。また、4年生への発表のときにも分かりやすく伝えるための一つの手段として、意識して使っている児童が多かった。

本文の読み取りでは、「和菓子を支える人々」という観点において、三つの小見出しを文中から探し出した。前時の学習では、段落の1文目に書かれていることが多いことに児童が気付いた。しかし、ここでは、段落の最後の文や段落全体に書いてあるところもあり、難しく感じる児童もいた。小見出しごとの内容の読み取りでは、本文の大事だと思う言葉（要点）に線を引き、短い言葉でまとめる活動をした。これは、並行読書で自分が調べた資料から、大事なところを抜き出す活動につなげていくための練習として行った。更に、資料として紹介されていた写真の効果について話し合った。説明するためになぜこの写真が使われているかを考えることが、自分たちが資料を選ぶときの視点となった。

読み取りの後に、この観点から思ったこと（読み手として受けた感想）と、作者の工夫（これから話し手となるときの参考）をワークシートに書き、グループで共有した。最後に振り返りとして、本時で学んだ観点をもとに自分はどんなことを詳しく調べたいか、発表するときにはどんな工夫を取り入れたいかを書くことで、並行読書やその後の発表で使える材料として記録を残した。

9 成果と課題（研究協議・受指導から）

- 4年生に伝えるという目的意識と相手意識があったので、意欲的に取り組んでいた。振り返りでも本時の観点をもとに、4年生に伝えることを意識して書くことができていた児童が多かった。
- 教材文だけでなく、写真からも読み解くことで内容がつかみやすかった。
- 文章の読み方を身に付けていけるように、1年生から段階的に組み込み、積み重ねていくことが大切である。
- 本文の大事な内容を取り出すための手立てが必要である。
- 教科書に線を引く際、ペアで見せ合う時間や写真から気付きを出す場面でもっと児童の発言があってもよかった。
- 本時の学びを自分の言葉でどうまとめるか、子どもが意識をもって振り返りができるようにするとよい。

